

2021年度

社会貢献事業報告書

一般社団法人リトルグリーン

一般社団法人リトルグリーンの社会貢献事業が目指すもの

日本で生活している子ども達が、当たり前にご飯を食べ、元気いっぱい勉強したり遊んだりする社会の維持、また、これから訪れる日本の苦境の時代においても、ご飯を食べることが出来る社会の実現。

私の思い

今回の報告書は思いのままに作成していく事にしました。

2019年、秋、私はラジオのニュースで次のようなことを聞きました。

- ・幼児が親にご飯を作ってもらえずお腹をすかせ餓死した。
- ・国会では“桜を見る会”でもめていた。
- ・スーパーマーケットで売れ残りの恵方巻が大量に廃棄された。

この3つのニュースは、何の因果関係もありません。が、私はなぜ日本に食べ物が沢山あるのに幼児は餓死したのか？と素朴にそう思いました。

筋の違う話なのでは？

そうですけれども、そのとき私は無理矢理でも何とかならないものかと思いました。

“風が吹けば桶屋が儲かる”という言葉があります。私には仮設も検証も上手な説明もできませんが、何かしないと何も変わらないと思い、出来の悪い頭で考えた結果、「子ども食堂にお米を持っていこう。」と思いつきました。



写真右 一般社団法人 BIG UP 石巻 原田代表

2021年、秋、私は“仙台市ボランティアセンター”というサイトを見つけ早速電話をした、誰もでない…困りながらサイトを閲覧していたらイメージ通りの写真が掲載された子ども食堂を発見、また電話、今度は繋がった。

電話で話した方は、一般社団法人 BIGUP 石巻 原田代表でした。私は「とりあえず会って話を聞いてくれませんか？」と、原田代表「今度みんなでさつまいも掘りのイベントをやるので、手伝ってくれませんか？」私は即答し、さつまいも掘りのイベントに参加しました。

そこで見たものは、すごい勢いでさつまいもを掘っていく子ども達の姿、スタッフに対してはリーダー、子ども達に対しては学校の先生のように接する原田代表の姿でした。私は大したお手伝いはできませんでしたが、目的であるお米の話をし、承諾を得ることができました。後日、新米のひとめぼれ30kg×8袋、寄付させていただきました。原田代表のお話では、子ども食堂を利用する子供たちのなかには、孤食だったり、本当に食べるのに困っている子もいる、そういう子を見つけてフォローできればと話していました。そうそう、宜しくお願い致します。また、いままで子ども食堂に支援されていた企業、個人の方が沢山いらっしゃるということを知りました。素晴らしいですね。

私も、微力ではありますが毎年子ども食堂を運営されている団体等にお米を寄付させていただきたいと思います。私は、生産者でもありますので、こだわってつくった最高のお米を届けられるよう努めていきたいです。

当法人のこれから

昨年までは個人で活動していましたが、今年からは法人としての活動が加わり責任も重大です。日々いろいろなことが起こると思いますが、常に向上心をもって取り組んでいく所存であります。社会貢献事業も今のところ

る目的達成に向けた最善の方法だと考えておりますが、他のもっと良い方法はないのか考え続けたいと思います。大勝負なのは2022年、本当に意味があるのかわかるのは2025年からだと思っています。

一般社団法人リトルグリーン

代表理事 須藤 悟

2022年2月 記す